

近隣交流七輪プロジェクト 2011

発表者 石山 奨 小川名亮介 戸島史貴 中村貴秀
橋本まな美 藤原保弘 益田大地 (梅澤ゼミ 3 年)

概要

七輪を使った近隣交流イベントは、提案者の片桐徹也先生によって 2008 年度より多摩市諏訪名店街七夕フェスタ(夏祭り)で実施されてきた。2010 年度からは梅澤ゼミが引継ぎ、今年度が 2 年目となる。我々は昨年度の経験を活かし、今年の七輪横丁に向けて準備を進めてきた。しかし、名店街・近隣自治会が協議の結果、今年度は実施しないことが決定した。また、商店の改築・改装などが行われ秋のオーガニック市などのイベントも縮小される中、お世話になっている名店街の方々とさまざまな可能性を検討した結果、12 月 3 日(土)・4 日(日)に諏訪名店街で行われる東北復興応援イベント&お歳暮セールで「近隣交流“冬の七輪”」を行うこととなった。

東北復興応援&お歳暮セール

3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震により原発の影響を受けた福島県を応援することを目的としたイベントである。福島県は原発事故の影響によって農作物は「風評被害」等の大きな影響を受けている。あしたや共同企画では、厳しい検査を通った安心・安全な農作物をインターネット販売、首都圏での直接販売で支援している。諏訪名店街は「がんばろう福島、農業者の会」の農作物、農産品等を定期的に販売する機会を提供。12 月 3・4 日のイベントでは、大々的に福島県産の食材や加工品・郷土料理などの販売を行った。又、青木屋は御汁粉、自治会はおでんを販売するなど、季節に合わせた屋台が多く出ている。その他、国土舘大学ウェルネスセンターや地元中学生によるイベントも行われた。

七輪の特徴を活かした交流

物を煮るのに価七厘の炭で足りる意味からできたコンロ。多くは土製で調理用の炉に使用された。生活環境の変化に伴い点火や消火・火力調理が迅速ではないこと、火災の原因となること、灰の始末や燃料の扱いに手間取ることが原因となり利用度が減ってきたが、逆に災害時での炊事熱源活用などで注目され、近年は需要が増えつつある。

調理に時間がかかることを逆手に、近い距離で必然的に会話が生まれることで、さまざまな交流ができることから、敢えて七輪を使った“近隣交流七輪横丁”が始まった。

冬の七輪

今年度の梅澤ゼミ七輪プロジェクトのコンセプトは「冬の七輪」。今までの「夏の七輪」とは異なった食材を提供し、冬に行うことにより冬特有の食材を楽しむてもらおう空間・場所を創ることを目的とした。

諏訪名店街と諏訪団地の特徴

諏訪名店街は多摩ニュータウンの中で最も古い商店街。周りの団地は核家族中心の住宅に設計されており、2 世代以上で暮らすことが出来ず、世代交代が生まれにくい環境にあるという問題を抱えている。現在、住居者の大半が高齢者の方であり、独り暮らしの方も多く、また、多くの空部屋がある。

近隣交流七輪横丁 2011

昨年のイベントを踏まえて、「子ども達が楽しめるイベント」をメインテーマとし、その家族や近隣住民の交流をコンセプトに「冬の七輪」を実施。実施側の参加者は、プロジェクトメンバーの7名、梅澤ゼミ3年4名、2年5名の計16名。

食材は昨年同様、有機栽培・低農薬などこだわりの食材を取り扱う「あしたや共働企画」さんの協力により、肉は鹿児島産渡辺パークシェアーの豚肉ロース・モモ、野菜類は「がんばろう福島 農業者の会」から福島県産野菜(かぼちゃ・ピーマン・さつまいも・玉ねぎ)をセットにして1プレート400円で販売。さらに今回は、子どもたちに「七輪でさんまの塩焼きを！」と冬の食材のサンマもメニューに追加した。そして子ども達に喜んでもらおうと食後のデザートとして焼きマシュマロをサービスした。青木屋さんのお餅を購入し、磯辺焼きも提供。青木屋さん特製団子のたれで食べる焼餅は絶品であった！

昨年の課題となった、「車座の七輪」はご年配の方には足や腰に負担が大きく敬遠されるという意見から、今年度は1日目からテーブルと椅子を用意。椅子に座ってゆっくり食事をし、コミュニケーションを楽しむ環境を整えた。今回、子どもたちが七輪にとっても興味を示し、お年寄りが七輪の解説から昔の話が出るなど、来店されたお客様からは「世代を超えて交流があるのは嬉しい」などのお声を頂いた。

反省と今後の課題

1日目はあいにくの豪雨。気温も低く来客も少ないことが予想された中での実施。ゼミ2年生のアイデアで他のエリア、公園と広範囲に呼び込みに回ったが来客数を増やすことは難しかった。又、お客様から「1セット400円は少々値段が高い」というお声を頂きました。

2日目は検討の結果1セット300円に下げ販売。天候には恵まれたが日曜日の為、人通りの少ない中での実施。前日、通りがかりの方達から「何をやっているのか」と聞かれることが多々あった為、看板の位置、実演を近づけ、イベントがより明確に見えるような工夫を行ったが、次年度に向けて改善していきたい。

主な課題

- 雨天、寒さ対策：ビニールシートで覆うなど豪雨にも耐えられる万全な対策
- 事前の宣伝方法を考える
- アルコールやジュースなどドリンク類の販売の検討
- 他大学へのイベント参加、協力への働きかけ
- 値段定価や原価調整
- スケジュールの最終チェックや万全な事前準備

最後に

今回のプロジェクトは「冬の七輪」として新たな取り組みを行ったが、寒さや天候の善し悪しに左右され、とても難しいイベントであった。しかし、地域の方々からは「交流があると、とても楽しい」という声をいただき、イベントの意義を改めて確認した。

最後に、いつも親身になって相談にのっていただき、たいへんお世話になっている青木屋、あしたや共働企画、諏訪名店街、自治会の皆様、片桐徹也先生に感謝致します。